



若者 × 情熱

ミハラのチカラ

STORY 09

自分らしく表現し続けたい

画家 佐々木高信さん

「生まれ育った三原で自分だけの表現を生み出したい」。病いを克服し、その経験をばねに美術界に新風を吹き込もうとしているのは、糸崎在住の画家 佐々木高信さんです。

中学時代から本格的に油絵を始め、高校卒業後、画家を志して東京の美術大学に進学した佐々木さん。在学中、自分の内面をキャンバスへ投影するような抽象画に取り組みうち、心身に異変を感じるようになりなりました。

「都会の複雑な人間関係の中で、必死に自分の絵を模索した。描くたびに精神を引き裂かれるような感覚があった」。好きだったはずの絵を描くこ



▲絵は下書きをせず、一気に描き上げます

とが次第に辛くなり、大学院を修了したときにはうつ状態になっていた。三原へ戻っても必死にキャンバスに向かい続けましたが、体調不良の中での創作は限界にきていました。幻覚や妄想に襲われ、病院で統合失調症と診断されました。入退院を繰り返し、「ただ部屋に座り、絵筆もとらなかつた」日々が3年間続きました。

適切な医療と周りの支えの甲斐もあり、5年前から病状が回復。創作意欲を取り戻し、モチーフに選んだのは昔遊んだ糸崎の工業地帯でした。「ここが僕の原風景。スケッチしていると気持ちが高揚してきた。絵が楽しかったころを思い出した」。その後、自画像をテーマにした作品に取り組み、個展も開きました。

今、制作しているのは、絵とオブジェを組み合わせた作品。「異なるものを融合して、変換し、新たな表現を生み出す」のがねらいです。「ようやく自分だけの作風にとどり着いたかもしれない」と表情が緩みます。



※このコーナーでは、スポーツや文化・芸術活動などに情熱を注ぐ若者や子どもたちを紹介します。

海を歩く

なかもと はるな

撮影者 中本遥菜さん

撮影エピソード

毎年恒例のポポロでのイルミネーション。築城から450年が経ち、現代によみがえった浮城 三原城の姿に圧倒されました。



●撮影年月 平成28年11月
●撮影場所 芸術文化センターポポロ



写真・絵を募集しています

テーマ

～あなたが残したい三原の風景～

応募資格 市内在住・在勤・在学の人

選考 総務広報課で選考

※応募作品の著作権は市に帰属し、市の公式フェイスブックで紹介させていただく場合があります。

※応募作品は返却しません。

申し込み 郵送またはEメールで写真(L判・データ)か絵(大きさは画用紙A3サイズまで)と①名前②住所・電話番号③撮影・制作日④撮影・題材場所⑤作品名⑥作品エピソード(70字以内)を総務広報課(〒723-8601港町三丁目5番1号 ☎0848-67-6007 ㊟somukoho@city.mihara.hiroshima.jp)へ